

美術Ⅰ 映像メディア表現における未来型授業の試み

美術科 吉村雅利
土谷 まりあ

本校の美術Ⅰは、1学期に、作品鑑賞と絵画・映像制作の基礎を学習し、2学期から映像コースと油彩画コースに分かれて作品制作を行っている。今回の研究授業は映像コースの授業が中心の発表であるが、通常授業の一コマでもあるので、普段通りに油彩授業と映像授業を並行して行った。

研究授業は、いつもの半分の時間に撮影と編集の両方を詰め込んだので、かなり慌ただしい授業になってしまった。生徒は普段の半分の制作時間にも要領よく適応して研究授業の時間枠に納まるように撮影や編集の作業も完了できてしまうのだが、時間が短い分、じっくりと深く考えてクリエイティブな制作をする事ができなかった。映像の芸術的な質を追求する授業のはずなのに、撮影や編集の作業能力を競っているかのような授業になってしまった。これは、私が公開を意識し過ぎ、初めてこの授業を見る人に全体像がわかりやすいようにと、撮影、編集、鑑賞を50分の短い時間に詰め込んだ結果である。忙しいダイジェスト版授業にしてしまったと反省している。

美術Ⅰ 二学期 映像「動きを表現する」(指導 吉村雅利)

【課題】

- ①体育館で撮影した動画や静止画（コマ撮り）を編集して、フィギュアスケートを映像で表現する。
- ②アクセルジャンプ、イナバウアー、バタフライ、シットスピンを含む連続したフィギュアスケート映像を擬似的に制作する。
- ③5～6名一組のグループで、監督、振り付け、撮影、役者、編集を分担して制作する。
- ④使用機材等は、デジタルカメラ、iPad、三脚、編集パソコン・ソフト（MacMini・FinalCutExpress 使用）

【評価のポイント】

下記のポイントが映像の出来映えに影響する。

- ①振り付けは、iPadでフィギュアスケートの映像を確認し、役者にポーズや動きを指示する。
- ②役者は、監督や振り付けの指示に応じて、最適なポーズや動きで演技する。
- ③撮影は、カメラや三脚をうまく使いこなし、最適なアングルやフレーミングで撮影する。
- ④編集は、パソコン・ソフトを使いこなし、タイミング、フレーミングをコントロールする。
- ⑤監督は、全体をまとめ、高品質な映像が効率よく制作されるよう進行を適切にコントロールする。

【指導計画】

今回の授業以前に学習済みの項目

- ①カメラ、三脚など機材の使い方。
- ②フレーミング、アングル、ズーミング、パン、コマ撮り、など撮影の基本。
- ③起承転結などストーリー構成、カット割りや絵コンテの描き方の基本
- ④コンピューターによる映像編集の基本

【本時の指導】

	学習内容と情報	指導上の留意点
導入 3分	<ul style="list-style-type: none">・授業の流れを理解する。・参考映像鑑賞。	<ul style="list-style-type: none">・今日の授業の流れを説明。・フィギュアスケートの演技、アクセルジャンプ、イナバウアー、バタフライ、シットスピン映像を1分程度に編集した映像を解説。
準備 5分	<ul style="list-style-type: none">・撮影場所への移動と機材の設置。	<ul style="list-style-type: none">・三脚、カメラ、参考映像を保存したiPadを配布。・体育館へ移動
撮影 25分	<ul style="list-style-type: none">・班別に撮影を進める。	<ul style="list-style-type: none">・個々に必要に応じて指導。
編集 15分	<ul style="list-style-type: none">・映像をパソコンに保存し、編集ソフトに読み込む。	<ul style="list-style-type: none">・撮影した映像を一つのフォルダにまとめて保存。・1台のパソコンで編集する班、複数のパソコンで編集を分業する班がある。
まとめ 2分	<ul style="list-style-type: none">・各自片づけ。・次回までに自作の改善点などを確認し、次回に備える。	<ul style="list-style-type: none">・来週の予告。・必要に応じて、再撮影や補足撮影のポイントを指導。

美術 I 二学期 油絵「自画像」(指導 土谷まりあ)

【課題】

- ①バストショット(胸像)の構図で、自画像を描く。
- ②自分の写真を参考に、立体的で細密な描写を目指す。
- ③黒で地塗りをしたキャンバスに、下絵を転写し、白色絵の具で明部を描き起こす(白色浮出)。

【評価のポイント】

- ①細部まで良く観察して緻密に描ける。
- ②明度の違いを適切に描き分け、立体感や空間を表現できる。
- ③絵の具や筆を適切に使いこなせる。

【指導計画】

二学期～三学期にかけて制作し、時間をかけて細密に描き、見ごたえのある作品を制作する。

9月

- ・鉛筆デッサン（石膏像デッサンの模写）→明暗を描き分け、立体的な細密描写を体感する。
- ・iPadを使用し、バストショットの写真を撮影する。→自分らしい表情やポーズを工夫する。
- ・並行して、キャンバスの下塗り（ブラック）。

10月

- ・撮影した写真をPhotoshopでポスタリゼーション加工し、明暗を5階調化し印刷し配付。
- ・写真をトレースして、キャンバスに写真の輪郭を転写する。
- ・写真を見ながら、アクリル絵具（ホワイト）で明部を描き起こす（白色浮出）。

【本時の指導】

	学習内容と情報	指導上の留意点
導入 3分	・授業の流れと、下描きの方法を理解する。	・今日の授業の流れを説明。 →先週に続き、アクリル絵具（ホワイト）で描き進める。 ・絵の具で制服を汚さないよう、着替えや、エプロン等を準備する。 ・制作上の注意点を再度確認する。 ①アクリル絵の具は乾きが早いので筆をこまめに洗うこと。 ②服等に絵の具がつかないように気をつける。 ③面相筆は、筆先を使って描く。 ④明度の違いを注意深く描き分ける。 ⑤写真を細部まで観察しながら描く。
展開 45分	・各自作業を進める。	・個々に必要に応じて指導。
まとめ 2分	・各自片づけ。 ・来週の授業の把握。 ・キャンバスから離れて、自分の絵を客観視する。	・来週の予告。以下を伝え注意喚起をする。 ①次週も絵の具を使用する為、着替えや、エプロン等を準備すること。 ②次週以降も、授業前にキャンバスとイーゼルを準備すること。 ③筆の洗い方、収納方法、絵の具のふたをしっかりと閉めること。